



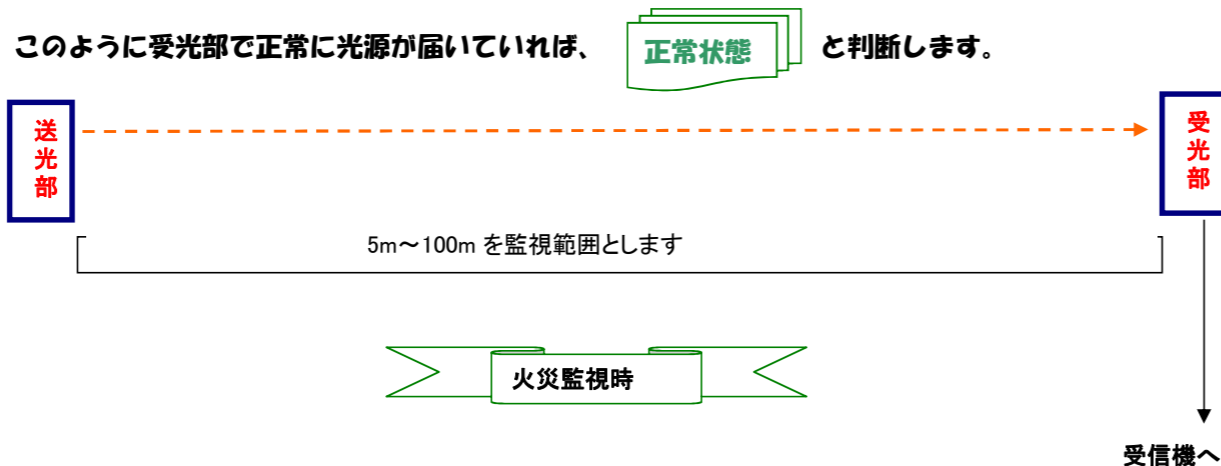
光電式分離型煙感知器について

- 西日本防災システム

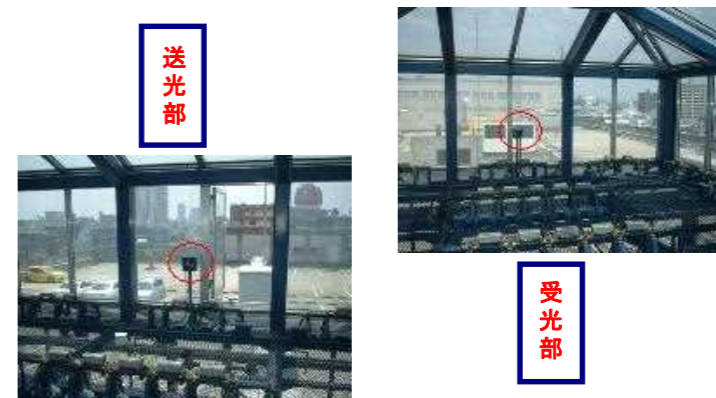


光電式分離型煙感知器は 名前の通り **分離** しています。つまり **送光部**と**受光部**に分かれています。

作動原理



吹抜けなどの広域空間の火災監視を目的としています。

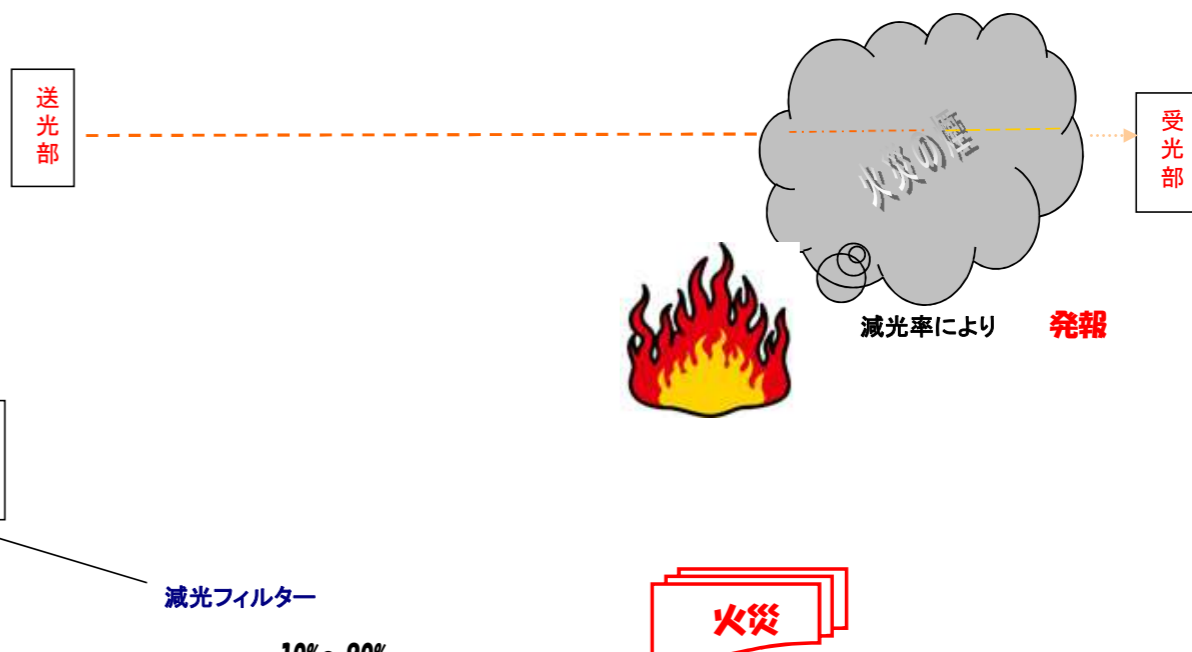


作動原理

一過性の遮蔽物質により光源が減衰しても、その範囲により**作動しない**不**作動機能**を持ちます。



火災などによる**不作動範囲を超えた煙**がこのように **光軸を遮断**し、**受光量に変化**が出ますと **発報**することとなります。

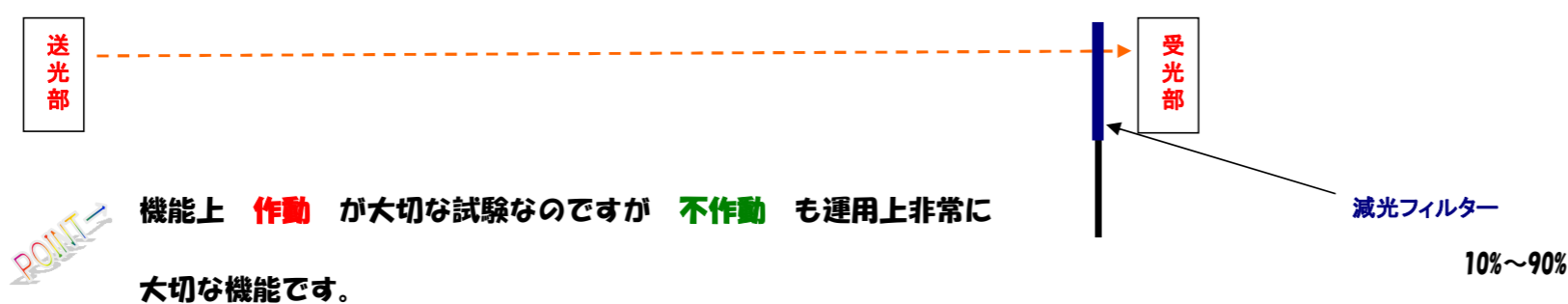


点検・試験

感度種別は **1種 2種** あり、それぞれ **感度 (減光率)** で定められています。

分離型の点検、試験は **減光フィルター**を用いて、**作動試験**、**不作動試験**を行ないます。

受光部直近に設置し、それぞれの感度に応じて **作動及び不作動**を確認します。



POINT 機能上 **作動** が大切な試験なのですが **不作動** も運用上非常に大切な機能です。

減光フィルターについては次ページを参照してください



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>

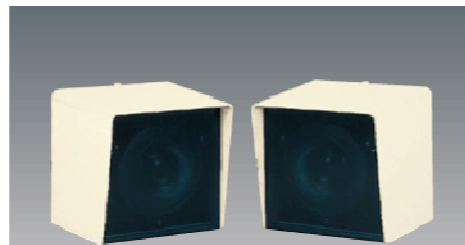
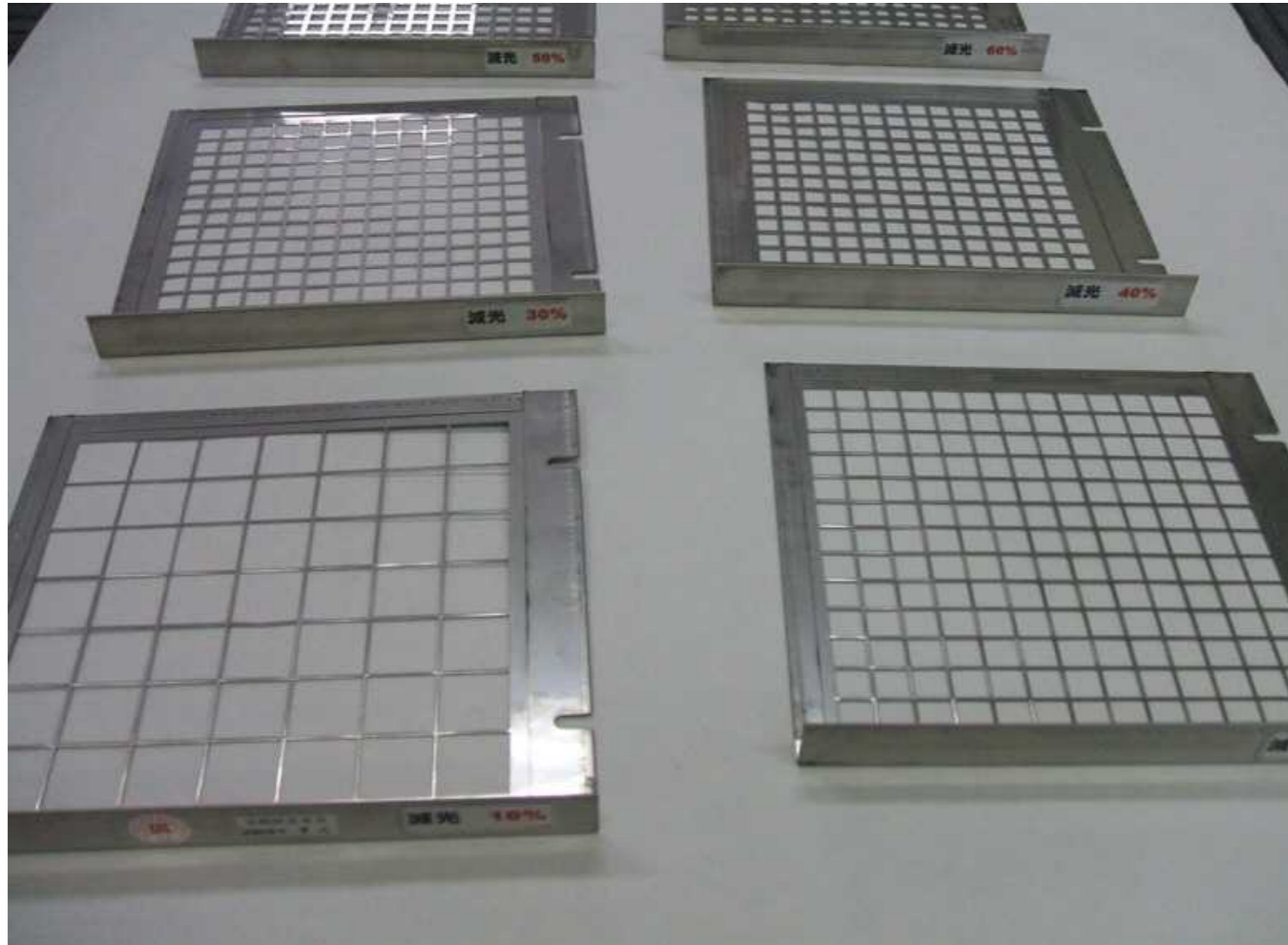


弊社Top Pageへ

光電式分離型煙感知器について - 西日本防災システム



減光フィルター



panasonic製
光電式分離型

火災作動試験

受光部前面に下表作動の減光フィルターを置き、15秒以内に作動することを確認します。確認灯、受信機により発報確認を行ないます。

不作動試験

受光部前面に下表作動欄の減光フィルターを置き、30秒間作動しないことを確認します。

使用フィルター一覧

監視距離	項目	1種作動	2種作動	不作動
5m~10m		30	40	10
10m~15m		30	50	10
15m~20m		40	50	10
20m~30m		40	60	10
30m~40m		50	70	20
40m~50m		60	80	20
50m~100m		60	80	30

数値は減光率を示す



能美防災製
光電式分離型



ホーチキ製
光電式分離型

設定表示範囲等の範囲

監視距離	表示の種別	設定表示の範囲	種別
4 監視距離以上	注意表示濃度	$0.3 \times L_2\%$ を超え $2/3 (0.8 \times L_1 + 29)\%$ 以下	光電式分離型1種
	火災表示濃度	設定注意表示濃度を超え $(L_1 + 40)\%$ 以下	
	注意表示濃度	$2/3 (0.8 \times L_2 + 29)\%$ を超え $2/3 (L_1 + 40)\%$ 以下	光電式分離型2種
	火災表示濃度	設定注意表示濃度を超え $(L_1 + 40)\%$ 以下	
4 監視距離以下	注意表示濃度	設定注意表示濃度を超え85%以下	光電式分離型1種
	火災表示濃度	43.3% を超え567%以下	
	注意表示濃度	$0.3 \times L_2\%$ を超え43.3%以下	光電式分離型2種
	火災表示濃度	設定注意表示濃度を超え85%以下	

注 L1は公称監視距離の最小値
L2は公称監視距離の最大値



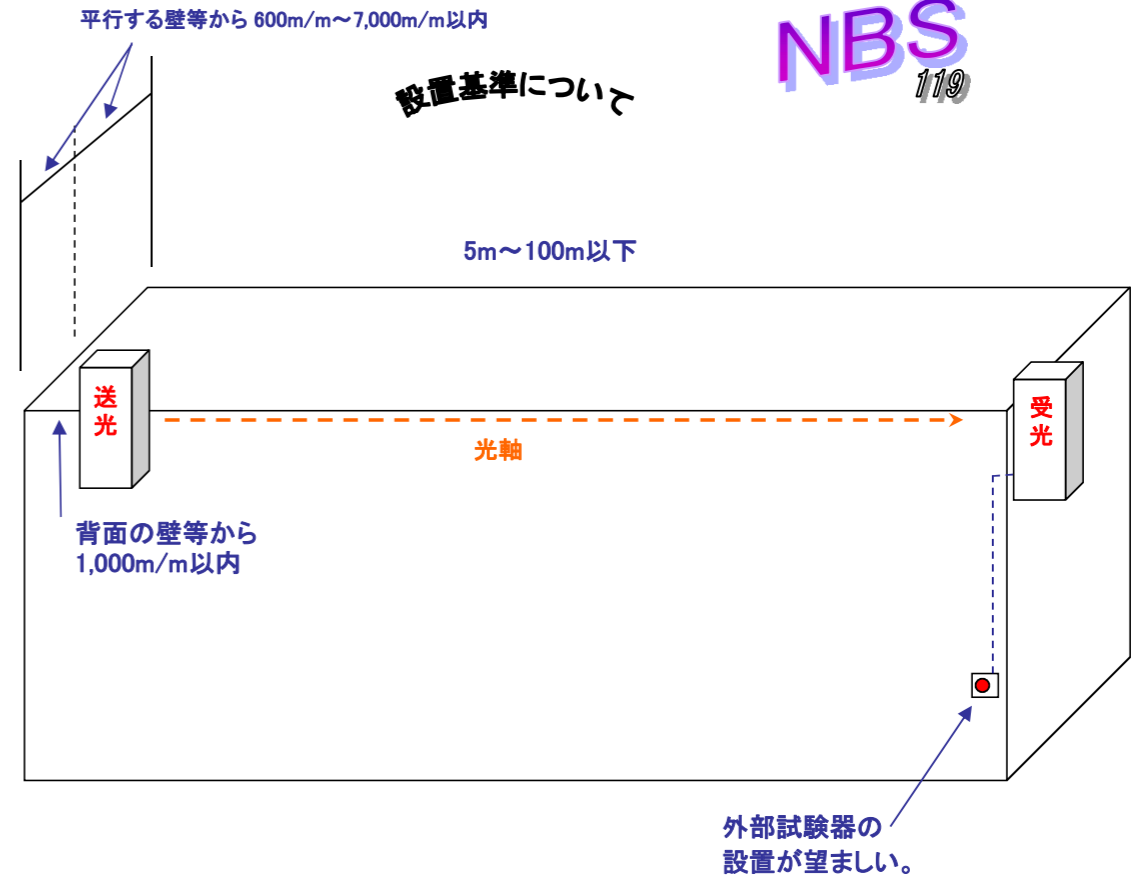
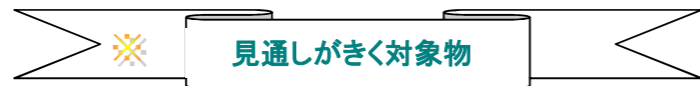
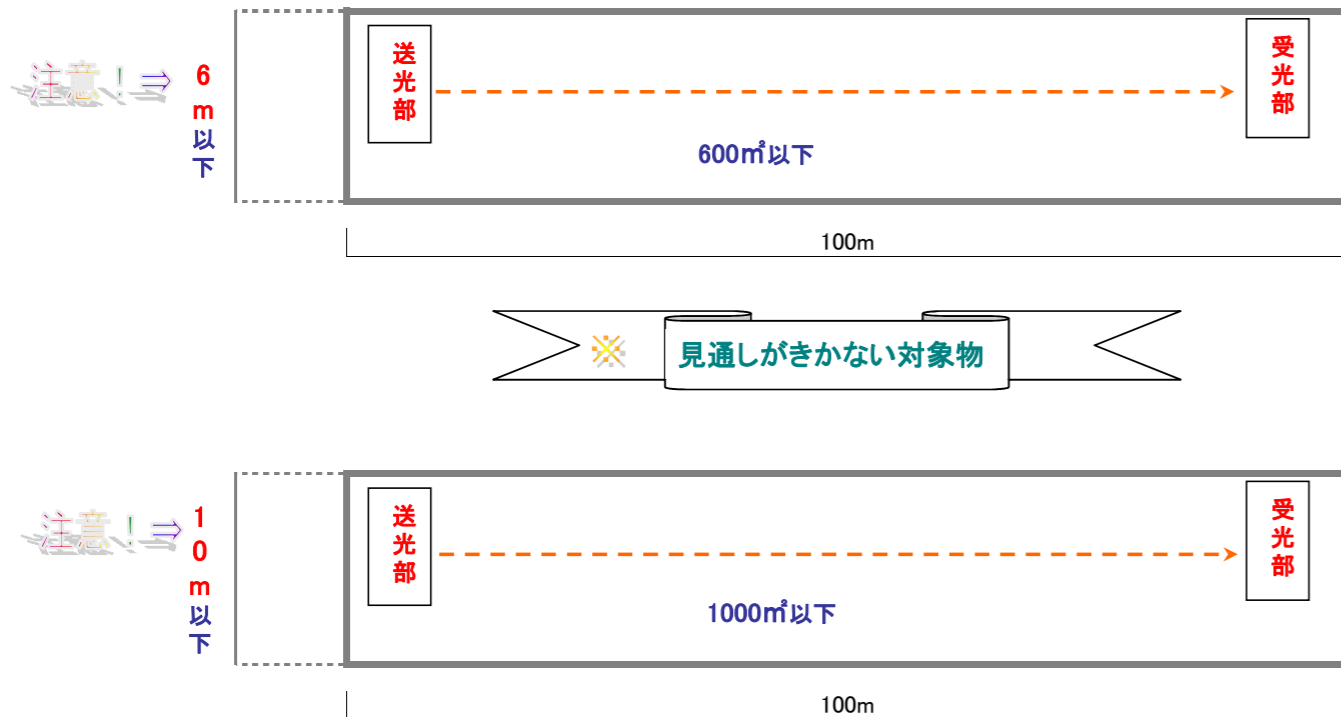
西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ

光電式分離型煙感知器設置基準について - 西日本防災システム

監視範囲について



- 受光部に直接太陽光が進入しないよう取り付け位置に注意する事。
- また夜間、車のヘッドライト等の直接の進入にも配慮する事。
- 光軸は壁との距離を600m/m以上確保する事。
- 壁によって区画された区域ごとに、当該区域の各部分から光軸までの水平距離を7m以下とする事。
- 送光部及び受光部はその背後の取り付け面から1,000m/m以内である事。
- 感知器を設置する監視区域の天井高さは20m未満とする事。
天井高さが15mを超える場合は、感知器を1種のものを使用する事。
- 感知器の光軸の高さは天井高さの80%以上とする事。
- 感知器の監視光軸の長さは5m~100mの範囲内とする事。

